

## スラブ・ユーラシア学 ロシアの諸宗教

授業趣旨：宗教は、各宗教・各宗派ごとに研究されたり講義されたりする場合がありますが、実際には、多くの宗教を横断しながら学ぶことで見えてくるものも多いのです。宗教は、その国や社会の全体的な性格を知るプリズムになります。本授業が扱うロシアは、伝統的に多宗教国家でしたが、社会主義時代には宗教が弾圧されていました。その後、宗教活動が自由化されると、宗教復興と呼ばれる現象が起こったのですが、信心深い人、教会やモスクに足繁く通う人は、こんにちでもごく少数派です。にもかかわらず、上はプーチン・メドヴェージェフから下は庶民まで、宗教はロシアにとって非常に重要であると認識しています。この矛盾はどう理解されるのでしょうか。また、この矛盾は現代の他の多くの国とも共通しているのではないのでしょうか。ロシアを代表する正教、イスラーム、仏教、ユダヤ教、シャマニズムを概観しながら、そのような問題を考えてゆきましょう。

期間：2011 年 7 月 25 日（月）～7 月 27 日（水）

場所：スラブ研究センターセミナー室1（404）

授業日程	7 月 25 日（月）	7 月 26 日（火）	7 月 27 日（水）
午前授業 9:30-12:00	松里公孝 ロシア正教：国際的な側面	藤原潤子 異教：ソ連崩壊後の呪術リバイバルと新興教主義を中心に	赤尾光春 ユダヤ教
午後授業 1 13:00-15:30	井上まどか ロシア正教：ロシアの国内政治との関連で	長縄宣博 イスラーム教：帝国内と民族の間で	荒井幸康 仏教
午後授業 2 15:45-16:45	質疑応答・討論	質疑応答・討論	質疑応答・総合討論

\* 履修資格：本学の大学院に所属する学生なら誰でも履修可能です。

\* テクスト・参考書は授業に先立って掲示等の方法で周知し、講義中に資料を補充します。

\* 受講申請：すでに履修登録の時期は過ぎていきますので、未登録で単位の必要な方は、ご所属の研究科・学院の教務担当とご相談の上で、登録してください。

問い合わせ：スラブ研究センター 松里公孝 <kim@slav.hokudai.ac.jp> 内線 3311